

## 高崎市のシティプロモーション パリで確かな手ごたえ

群馬県高崎市がロケ地となった日本、シンガポール、フランス合作の映画「ラーメン・テー」のプレミアム上映会に合わせ、高崎市と高崎フィルム・コミッションなどは9月下旬、パリの上映会場で高崎の街と食の魅力を伝えるシティプロモーションを行った。外国人誘客と映画ロケの招致が目的。パリ市民に高崎だるまを配ったり、焼きまんじゅうやうどんを振る舞い、「高崎」をPRした。

舞台あいさつにはシンガポールの映画界をけん引するエリック・クー監督と主演の斎藤工さん、シンガポールの女優、ジネット・アウさん、松田聖子さんが参加した。上映会参加者を招いた船上パーティーで、富岡賢治高崎市長はビデオメッセージで「ラーメン・テー」や高崎の街の魅力を紹介。PR映像では群馬交響楽団や高崎だるま、白衣観音、榛名山ヒルクライムを取り上げ、来場者の関心を集めた。

焼きまんじゅうや高崎うどんを振る舞ったブースでは、フランス語や英語で解説。フランス人にとってどの食事も「興味深い」とまずまずの反応だった。

焼きまんじゅうを「パンのような食べもの」と説明すると、フランス人は抵抗感なく、口にしていた。あまじょっぱい味は、口に合うらしく、お代わりする人もいた。高崎うどんはJAたかさきの商品で、高崎市内で収穫した梅で作った梅干しを練り梅にして添えた。うどんはフランスでも知っている人がいたが、練り梅を添えたことが目新しく、注目された。高崎市内にある牧野酒造が高崎産の梅で造った梅酒「BENI」をソーダ割にして飲んでもらった。

高崎市企画調整課の担当者は「予想以上に焼きまんじゅうやうどんに興味を持ってくれた。映画という切り口で、食などとセットで海外へのPRを図っていきたい」と手ごたえを語った。

上毛新聞社 役員待遇東京支社長 田中 茂



パリの上映会場で人気を集めた、焼きまんじゅうと高崎だるま